

アウトリーチ活動報告書

北海道大学病院 むし歯科 川本 千春

アウトリーチ活動実施名：「むし歯と病気 どうしてむし歯になるの？」

受領者氏名：川本千春

所属研究機関名：北海道大学病院 むし歯科

役職：助教

助成を受けた研究テーマ名：口腔内環境の検索を基盤とする早期消化器癌検出法の創出

今年度は、研究活動と並行して、次世代の科学教育に貢献するアウトリーチ活動にも取り組みました。その一環として、北海道大学・宮本淳教授が主催された「SDGs 子ども博士育成プロジェクト～研究者になろう～」の中で、小学生向けの講義と体験プログラムを担当いたしました。

このプログラムは、小学生が大学に訪問し、研究室の見学や実践的な体験を通じて、科学や研究の楽しさに触れることを目的とした探究型の教育活動です。子どもたちが「自分の疑問を自分で深める力」を育むことができるよう、大学側からも工夫を凝らしたプログラムが多数提供されました。私はその中で、研究テーマに関する講義を行ったほか、「歯のスケッチ」や歯学部内の見学ツアーも企画・実施いたしました。

講義では、「むし歯はなぜできるのか？」という問いから始めて、口の中の細菌や唾液の働き、食生活との関係について、イラストや写真を使いながらわかりやすくお話ししました。また、自分が現在取り組んでいる「口腔内環境の検索を基盤とする早期消化器癌検出法」についても、小学生にも伝わるように言葉を選び、親しみやすい表現でご紹介しました。「お口の汚れを調べると、おなかの病気がわかるかもしれない」という説明には、子どもたちも目を輝かせながら聞き入ってくれていました。

体験プログラムでは、実物大の歯の模型を観察しながらスケッチをしてもらい、歯の形や溝の細かさ、並びの特徴などに着目して絵を描くことで、歯の構造の精巧さや個性を楽しく学んでもらいました。また、歯学部の実習室や研究設備もご案内し、歯科ユニットや3Dプリンター、歯を削る機械、研究用の機器などに触れる機会も設けました。初めて見る道具や設備に驚きながら、子どもたちは熱心に質問し、「大学ってすごい！」「将来こういう勉強をしてみたい！」という声も聞かれました。

今回の活動を通じて、子どもたちのまっすぐな好奇心や柔軟な発想にたくさん刺激を受けました。同時に、難しい専門的な内容をどのように伝えるかを工夫する中で、自分自身の研究を改めて見つめ直す良いきっかけにもなりました。子どもたちに科学の魅力を伝えることの意義と楽しさを実感するとともに、研究成果を社会に還元する責任も感じています。

今後も、研究活動と並行して、子どもたちや一般の方々に科学や医療の面白さを伝える取り組みを大切にしていきたいと考えております。